

2019.3 編集・発行／高幡消防組合
印刷会社／(株)フロムタイムエージェンシー

目次

2ページ 平成30年7月西日本豪雨広島県のようす

3ページ 平成30年7月西日本豪雨岡山県のようす

4ページ 火災予防運動・平成30年度叙勲受章者紹介・新人紹介



土石流によって倒壊した家屋

平成30年7月豪雨

当 時 の 気 象 状 況



この豪雨は、平成30年6月28日から7月8日にかけて四国地方でも1800ミリを超えるなど、7月の月降水量平年値の2倍から4倍もの豪雨となり、また、48時間雨量、72時間雨量などが、中国地方、近畿地方などの多くの地点で観測史上1位となりました。前線や台風7号の影響で、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続けたことにより、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。

この豪雨により、広島県、岡山県では、7月6日19時40分に、高知県では7月8日5時50分到大雨特別警報が発表されています。住家被害も多く発生し、土砂災害や冠水被害のあった地域では多くの方が亡くなられました。「以上、内閣府発表資料「平成30年7月豪雨による被害状況等について」引用」

広島県

視察を行った広島県安芸区矢野地区では、山の稜線から土砂災害が2ヶ所に分けて発生。住宅地へ流れ込み、被害を拡大させました。この土砂崩れは、広島県山間地域特有の地質も影響しています。

広島県山間地域の地質は、花崗岩地質の山に花崗岩が風化した土が堆積。そこに根を張って森が形成されています。木が根を張るといっても2mほどで、短時間に多くの雨が降ってしまうと、表層崩壊が発生しやすくなってしまう。

今回の豪雨で、1時間降水量が広島県内2ヶ所の観測地点で観測史上1位を更新。1時間に55ミリから59ミリという短時間で大量の雨が降った為、土砂災害が発生しました。

地元の消防職員や消防団員に話を聞くことができたが、災害当時苦労したことは『避難誘導』。「知らなかった」や「放送が聞こえなかった」という意見があったそうです。

話を伺った方は「日頃から、地域住民のつながりや、連携を取ることで、お隣さん同士、地域ぐるみで避難誘導をしていくことができていたのではないかな」と、「正確な情報収集から必要な防災行動の実施に向けた早めの計画、行動が大事になる」とおっしゃっていました。



岡山県

岡山県では今回の豪雨災害のなかでも被害が大きかった総社市と倉敷市を視察してきました。

総社市では、周辺河川の増水によりアルミ工場が浸水。工場内の物質と化学反応を起こし爆発が発生しました。この爆発による被害は半径約2 km圏内で報告され、工場周辺の住宅の屋根瓦や窓ガラスは割れて吹き飛び、その飛散したガラスにより負傷者も発生しました。11月末現在も屋根や窓ガラスは当時の状態のままブルーシートで覆っている住宅が大半で当時の爆発の凄まじさを物語っていました。



アルミ工場周辺の視察時の状況



浸水した真備地区の状況(7月7日倉敷市撮影)

倉敷市真備町地区では川の堤防が8ヶ所も決壊したことにより、地区の約三割が冠水し最大浸水深は約5 mに達しました。冠水により尊い命が失われ、その大半は二階への避難が困難であった高齢の方々でした。また、この地域では昔水害がありました。その情報や話が風化していき『この地域が浸かる』という認識が薄れていることも問題視されていました。

地域の方々や多くのボランティアにより道路や住宅の土砂等は片づけられています。住宅が浸水したことにより11月末現在も約8000世帯の方が自宅で住めない状態が続いています。

高知県でも、平成13年9月に高知県西南部豪雨災害が発生しています。この災害では、土佐清水市、宿毛市、大月町等で、山の崩壊や河川の氾濫等により家屋の全壊、半壊、床上、床下浸水など甚大な被害が発生しましたが、幸いにも死者、行方不明者はませんでした。

そこで、水害体験者が語った災害時の行動をお手本に、住民が心得ておくべき心構えを「伝授 住民の防災心得十箇条」として、国土交通省四国地方整備局が取りまとめました。

伝授 住民の防災心得十箇条

- 一、 日頃の人の絆を大切にすること。
- 二、 昔からの言い伝えに耳を傾けること。
- 三、 常に危険箇所を念頭に置いておくこと。
- 四、 高い位置に避難場所を覚えておくこと。
- 五、 水害時には慌てて外に飛び出さぬこと。
- 六、 水害時には隣同士が連携して声を掛け合うこと。
- 七、 避難時には一人で行動せぬこと。
- 八、 浸水時の移動に際しては棒で水中を探りながら歩くこと。
- 九、 防災無線、電気、電話が使えぬ事態を想定すること。
- 十、 みんなが力を合わせて助け合うこと。

国土交通省四国地方整備局 高知県

高知県では近い将来、南海トラフによる地震の発生が危惧されており地震、津波に対する住民意識は高いと思いますが、その他にもいつどのような災害が起こるか分からないので幅広い災害の可能性を頭の片隅にでも置いておくことが減災に繋がると思われます。高幡管内でも地域住民がそれぞれの地域で津波や土砂災害、河川氾濫による浸水など起こり得る災害を防災マップ等で把握し、防災意識を高め、この十箇条を基にいつ起こるか分からない災害に備えておきましょう。

平成30年度叙勲受章者の紹介

高幡消防組合でご活躍されていた5名の皆様が日本政府より「瑞宝双光章」・「瑞宝単光章」を受章されました。受章者は、長年にわたり国民の生命・身体・及び財産を火災等の災害から防御するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の増進に寄与された方々です。

春の叙勲者

瑞宝双光章

元 高幡消防組合
四万十消防団団長

竹内 常喜 様
70歳

瑞宝単光章

元 高幡消防組合
須崎消防団団長

辻 正史 様
69歳

秋の叙勲者

瑞宝単光章

元 高幡消防組合
梶原消防団分団長

市川 吉朗 様
71歳

元 高幡消防組合
中土佐消防団分団長

出末 良典 様
69歳

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章

元 高幡消防組合
消防本部消防監

中間 正志 様
64歳

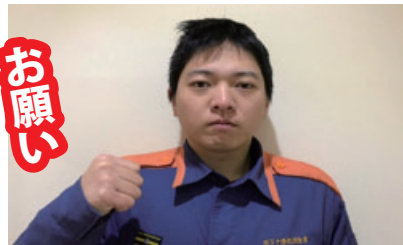
ニューフェイス
紹介!!

新人職員への質問 ▶ ①休日の過ごし方 ②消防学校での思い出 ③意気込み



中土佐分署 竹内 啓人 20歳

- ①釣り・スポーツ
②とても厳しかったですが、仲間と助け合い、励まし合う事で乗り越えることが出来、仲間の大切さを学びました。
③消防士としてまだまだ未熟ですが、これから多くの事を学び、住民の皆様の暮らしを守る存在になりたいです。



四万十清流消防署 門脇 勇 26歳

- ①釣り・トレーニング
②丸一日走った時はしんどかったですが、終わった後の達成感がすごかったです。
③住民を思いやり、芯を持った消防吏員になります。



津野山分署 氏原 侑大 19歳

- ①ゲーム
②全部。辛く苦しいことも沢山あったが、消防学校の半年間は小中高すべてを足しても負けない程楽しかったです。
③住民の事を一番に考えて動ける消防士になる。

ご協力をお願いします。



現在の全国統一防火標語は「忘れてない? サイフにスマホに 火の確認」です。皆様もこの言葉を忘れずにお出かけ前、おやすみ前には火の元のご確認を今一度行いましょう。

毎年、**3月1日～3月7日**の間、全国一斉に春の火災予防運動が実施されます。

この運動は火災の発生しやすい時期を迎えるにあたり、住民の皆様に防火防災に関する意識や防災行動力を高めていただくことにより、火災の発生を防ぎ、万が一発生した場合にも被害を最小限にとどめ、火災から尊い命と貴重な財産を守ることを目的としています。

春の
火災予防運動の
実施について

